

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101323		
法人名	社会福祉法人日浦会		
事業所名	グループホームレーブそとめ杏番館		
所在地	長崎市上黒崎町2199-14		
自己評価作成日	令和4年9月5日	外部評価結果確定日	令和4年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=4271101323-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然の山々に囲まれ、騒音も無い山頂の一角からは東シナ海が一望出来、庭先には花畑があり、季節ごとの花や収穫を楽しむことが出来ます。春には、桜の花が満開になり、昆虫や鳥のさえずり、秋には周囲の山々が色鮮やかに紅葉し、透き通った空気うへの満天の星空を仰ぐ立地に、設置しております。ご利用者の方も家庭的な雰囲気の中、のびのびと安心して各ご利用者のニーズに合った生活を送って頂いております。又そのように努力しております。現在、コロナ禍ということもあり、施設の行事や、ご家族、知人の方々の面会等に多少支障が出ておりますが、ご利用者やご家族の寂しさを施設なりに工夫し、穏やかで笑顔の絶えない日々を、職員と喜怒哀楽を交え楽しく生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づく運営において、優れている点として1つ目は施設と地域とのつきあいについて、コロナ禍でありながら地域の民生委員と連絡を密に取り、具体的には、長崎市の市民大清掃の他、当地区独自に清掃活動を行い、施設運営に活かしている。施設からの情報発信として「レーブだより」を毎月発行して入居者ご家族、地域包括支援センター、民生委員、自治会長他へ配付する他、個人別に、ホームでの生活状況、経緯をご家族宛に送り、報告している点を評価する。2つ目は当施設の利用に当たっては、当法人の関連施設である、老人保健施設からの入居が大半を占めており、老人保健施設でのリハビリ項目について、日常の中で、午前、午後のテレビ体操、歩行訓練等に加え、元気な入居者には食事準備時にもやしの根取りや畑での作業を通じて、運動能力の向上を図っている点を評価する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の設立理念を共有しホームの方針として、常にご利用者に満足頂けるよう、実践に努めている。	入居者の利用満足度を追求する為に、まず入居者の声に耳を傾け、常に笑顔で入居者に接し、寂しさを和らげる事を第一に考え、レクリエーションの取組についても、年間行事をていねいに作り上げて、職員も一緒に楽しんでいる。また職員の中に福祉理美容士資格認定者がおり、入居者全員のヘアークットを行い、入居者の満足度の一つになっている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に一度、市民大清掃へ参加したり、交通安全期間中は、立哨に参加し地域との繋がりを持っている。	地域の方々とのコミュニケーションをとる機会については、地域の民生委員と連絡を取り続けており、地域清掃活動等の情報を得ている。施設からの情報発信として、「レーブだより」を発行し、入居者、ご家族、包括支援センター、民生委員、自治会長他に配付しており、施設での生活状況、経緯についても入居者別に発行し配付し、施設を理解してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在の所、コロナ禍であるが、書面にて運営推進会議を行い、地域の代表の方々に参加して頂き、情報を提供しながら、地域の人々に発信して頂けるよう活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での会議でも地域の代表の方、ご家族代表、警察行政に参加して頂き、沢山の意見を頂いています。頂いた意見は、サービス向上に反映出来る様に努めている。	運営推進会議議事録の作成に当たっては ①各入居者状況②火災訓練・自然災害③施設における活動について協議している。各運営推進会議メンバーへ書面にて議題について、説明や添付資料を郵送し意見を求めている。毎回各委員から意見が送られてくる。内容例として避難訓練時のレーブ式番館との連携の質問等を受けている。議事録は丁寧に、分かりやすく記載しており、理解してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長崎市北総合事務所の担当者には、運営推進会議への案内、議事録を送付しています。また、毎月発行している「レーブだより」「生活記録」等も送付している。	現コロナ禍では、対面での報告は控えており、運営推進会議の議事録にて防災・災害訓練について、職員全員が避難経路や入居者一人ひとりの誘導の仕方を理解しており、毎月の訓練の内容を、議事録にして報告している。後ほど、行政担当者から、災害時の対応やBCP計画の作成、改定について、質問があっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関は自由に出入り出来るようにしているが、帰宅願望の強い方や外へ出ようとされる方は、施錠するのではなく、職員と一緒に同行し気分が落ち着かれる迄、付き添うようにしている。	身体拘束に関しては、事務所に「身体拘束ゼロへの決意」を掲げ職員全員が一丸となって身体拘束ゼロを目指している。入居者の夜間における転倒防止や、安全を確保する為に眠りスキャンをご家族の同意を得て設置している。職員同士、身体拘束について研修は、同法人内における高齢者権利擁護委員会の研修をふまえ具体例を交えて共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人グループ内の内部研修、施設内での勉強会を行い、虐待が無いよう職員間で話し合い、注意しあいながら、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	長崎県保険福祉部の権利擁護に関する研修に参加し、法人内の研修にも出来る限り参加して(業務上)全職員にも把握してもらうよう報告も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の病状の悪化、異常行動の際は、緊急時又は受診時に家族へ連絡し、十分に説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの要望、家族からは面会時、電話にて相談にのったりしている。職員に対しての不満等は支援相談員が受け付けている。	当法人の関連施設である、老人保健施設から退去時において、自宅では、介護環境が整っておらず、また日中での介護が難しいとの理由で当施設に入居される方が多い。入居後介護支援計画の改定時には、文書にて伺うようにしているが、やむを得ず電話による場合もある。入居者自身が思いや意見を上手に表す事の苦手な方には、まず寄り添い、慣れてから入居者の表情、態度を読み取りサービス提供に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるレーブ会議や申し送りで、職員の意見を集約し、月2回行われる主任会議にて、報告している。	毎月開催される職員会議において、入居者の各担当者が現況を議場に諮り職員全員で話し合い共通理解を得られるようにしている。会議中職員からグループホーム2施設の食材について、現在、関連施設から一括購入しているものの、食材の引き取りや食材の仕分けに時間が掛かっており、独自に共同仕入を行い、食材の引き取り時間や仕分けの時間を入居者に寄り添う時間をより多くしたいとの提案があり、グループホーム2設での仕入先の変更を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同グループの病院で年に1～2回の健康診断を行ったり、ストレスチェック等を行う事で、円滑に業務が行えるよう、法人長に相談を行ったりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に支障の無いように、法人内の研修を勧めたり、職員にあった研修等、考え研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の施設への見学は行っているが、現在ネットワーク作りは行っていない。外部の研修参加時、交流の場があるが、現在コロナ禍という事もあり、外部の研修には余り参加できていない状態である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に頂く情報提供書や、サマリーに目を通し、本氏が施設で生活していく上で、安心できるような、馴染みの物を居室へ置いたり、飾ったり、要望に耳を傾けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	窓越し面会や電話、アイパッドにて、気軽に相談出来る体制をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の支援相談員が、窓口となり対応している。また、本氏の急な対応の変化などによる支援の変更等、家族、Dr、相談員で話し合いを持ち、支援の見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者のサポートを行いながら、入居者の意向を第一に考え(出来る事、サポートを行わなければならない事)を話し合いながら、築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同グループ内の病院以外の受診や、困ったことがあれば、一緒に対応策を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方で、馴染みの方との窓越しでの面会、特に隣接するレーブ式番館や、電話、リモートでも対応出来るよう支援している。	コロナ禍においては交流の機会が少なく馴染みの人や場との関係を支援するに至っていない。入居者の中にはご家族が県外の方がいるので、ライン登録をお願いしてリモートでの面会を支援している。コロナ禍で職員のマスク着用、手指消毒を徹底して行い、コロナ感染者はゼロであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での共同作業やレクリエーション等を通じ、交流を深めたり、職員を交えて談話されたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は家族、病院と連絡を取り、職員が面会し安心して頂けるようにしている。但しコロナ禍という事もあり、現在はセーブしているのが、現状ですまた2週間以内であれば、戻って来られる様、追加項目として、同意書も頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に応じ生活して頂けるよう、車輛販売(買い物)リハビリを実施。困難な場合は話を聞いたり、散歩に出かける等、気分転換を図っている。	笑顔で接する事、一人ひとりへの声掛けを常に心がけ、本人の意向に沿うよう散歩に出かけたり、洗濯たたみをして生活リハビリもしている。コロナ禍で外出が制限されている為、週一回のパンの移動販売を入居者も楽しみにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人の生活歴を活かせる、活躍の場面を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の力量に応じ、日々の生活、心身の状況を職員一人ひとりが、理解し現状に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のレーブ会議で、各入居者の担当職員が、生活していく上での気づき、身体面を含め話し合い、検討を行っている。その様子は月1回ご家族へ送付する、生活記録や窓越し面会で伝えている。	入居時の情報、アセスメントを基に介護計画を職員、担当者、ケアマネージャーで作成し、3か月ごとに見直しを行っている。ご家族へは毎月個別に「ホームでの日常生活状況及び経過」を作成し、写真付きで健康面、生活面の变化や様子を伝え月行事も記載している為、安心感が得られる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日にあった出来事、気づき等を個別記録に入力し(タブレット)、職員間で共有しケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各個人が、必要と思われる要望に応じて行っている。(現在はコロナ禍により、自粛)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地元の自治会長や、民生委員、警察官の方にも参加して頂き、長崎市北総合事務所の職員同席のもとで、周辺情報や、支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度雪浦ひうらクリニックDr往診を受けているが、急を要する時はクリニックDrに連絡、指示を受け受診する様な対策をとっている。	主治医の指示を仰ぎ、同グループ内の医療機関、専門医へ受診の指示を受けている。以前からのかかりつけ医へは施設で対応し、受診後はご家族へ電話連絡し、受診内容は「受信記録」「医師指示表」に記録し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日3回のバイタルチェックを行い、その中で異常がある時は、雪浦ひうらクリニックDrへ連絡、相談しDrの指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報を交換し、法人内の支援相談員が窓口となり、早期に退院できる場合に備え連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設での生活が困難になった場合、速やかに同グループ内の病院と連携をとり、終末期は病院で迎える様にしている。	重度化した場合には、同グループ内の病院と連携し病院で迎えるよう入所時にご家族から同意を得ている。普段と違う症状を訴えたり、看護経験者の見立てから施設での生活が困難となった場合、同グループ内の医師の指示や受診を受け、ご家族と協議した上で病院への移行を進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、雪浦ひうらクリニックDrへ連絡指示を仰いだり、直接同グループ内病院へ連絡出来るようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	同グループ内で災害時の連絡体制を作り、協力体制を築いている。またその他の災害に備え、マニュアルに基づいた避難経路の確保、日中・夜間を想定しての災害、火災訓練を行っている。*消防署立ち会いのもと、消防訓練も行っている。(現在はコロナ禍により、主に通報訓練)	月1回避難訓練を実施しており、その都度防火管理者が、消防訓練実施報告書を作成し様々な事態に向けた訓練の検討を行っている。同グループ内の緊急連絡体制も作成し協力を得ている。ガスの元栓を締める等チェック表を使用し全職員で防火に努めている。また、周辺地域も禁煙地帯となっている。	災害への備えとして、備蓄品が同グループに保管されているとのことであるが、最悪の事態を想定し、必要な備蓄を独自に保管することを希望する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に関する研修などで、職員の技術向上に努めている。居室に入る時は合図して、言葉がけを行ったり、各個人の物を触る時等は、了解を得る等している。	認知症に関する研修を法人内外で受講し、その後職員全員で情報共有している。入居者に対して不適切な言動があった時は、レープ会議で伝えている。入居者は目上の人の方という意識を持ち「です。まず調」で声掛けすることを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に傾聴する事で、思いや希望を伝えて頂く事で、各個人に合わせた支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人の体調を踏まえながら、入浴や作業に無理強いする事なく個人にあった支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は、本人に選んで頂いたり、髭剃り、爪切りの支援、個人の希望で化粧されたりする方は、家族に持って来て頂いたり、代わりに職員が購入する等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の方針により、栄養士が献立を作り、食材を業者から届けて頂いている。また利用者に関しては、後片づけ等出来る方は、時々職員と一緒に協力して頂いている。	バランスの取れた栄養食で、毎月1日は赤飯、イベント食も月1回程度あり食の楽しみがある。職員も同時に同じテーブルで食事をとるので楽しい食事の雰囲気味わえる。共有空間に台所がある為、五感刺激もあり食事の準備や後片付けなど、入居者の積極的に手伝う意識が高い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた栄養士からの食事メニューを提供して頂き、各個人にあったこまめな水分補給も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来ない方は、職員介助し行う。また連携している、たけとみDCから毎週、往診があり、口腔内のチェック・義歯の調整等、行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄チェック表」にて各個人の排泄パターンを確認し、時間をみて排泄誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを使用して頂いて、対応している。	排泄は自立している方がほとんどで、車椅子からの移動等の支援を行っている。最近、夜間の尿失禁事例があったが、覚醒時や定時の声掛けをしポータブルトイレへ誘導することで解消された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便等をチェックし、便秘になっていないか観察。毎日テレビ体操や水分補給を行う等している。必要であればDrの指示のもと、緩下剤などを使用したりする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各個人が週2回以上入浴出来るよう支援している。季節に応じて入浴剤を使用する等、工夫している。	入浴時は職員と1対1なので会話も弾み、日頃できない会話もじっくりと傾聴できる。入浴剤を使用して気分転換を図り、シャンプー、石鹸も数種類選択できるよう準備している。入浴を拒否する方には、機嫌のよい時に声掛けして誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整や寝具の手入れを行い、安心して快適に休めるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を各個人の管理ファイルに綴じ、職員が把握出来るようにしている。また変更があった場合は申し送りに記載する。服薬は間違いがないように、確認して困難な方には、介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたためる人、食材の下処理や、個人の残存機能を活かし役割を持ち、楽しみながら生活して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	法人内での行事の参加や、散歩、ドライブ等、出かけられるようにしているが、現在の状況では実行できず、施設周辺の散歩、規模を縮小して施設内で工夫して、出来る範囲で行っている。	現在も外出が制限されているが、施設内の散歩や、花見をすることで気分転換を図っている。また、レクリエーションで風船バレーや輪投げ、お手玉、ペットボトルボーリング、カラオケ等全員で楽しめることを工夫している。個別の買い物については職員が代行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の所持するお金は紛失すると、トラブルのもとになるので、事務所の金庫の中に預り、毎日残金チェックを行っている。週に一度来るパン屋さんの販売時も個数を決めて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設での余暇活動の中で、ご家族に絵手紙などを作成し、送付したりしている。また電話等があったり、かけたりする場合は職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の庭に咲いた花や個別活動、誕生会で撮った写真、作品などを飾ったり、季節に応じた飾りつけを職員と一緒にしている。	建物の中央に共有空間があり、季節の飾り付けや大きな日付カレンダー、その日の担当職員の顔写真が掲示してあり安心感が得られる。また、トイレや浴室の入口には絵表示もあるので、一目でわかりやすい。清掃も早出の方が毎日行い、チェック表を用いて清潔感を維持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人が気に入った場所で食事したり、過ごして頂ける様、円卓・ソファを設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から本人が使っていた物や、大切なものを置いたり、家と余り変わりの無いような、雰囲気を作り、居心地良く生活が送れるようにしている。	居室からは見晴らしもよく、ご家族の写真やぬいぐるみなど馴染みの物を置き、入居者が落ち着く環境を整えている。スペースが広いので、車いすでの移動もしやすい。持ち物管理表を使用し退所時のトラブルにも対処している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、安全な移動が出来る様にしてあり、居室内もスムーズに起き上がれるように、Pバーを設置している。		